

校長室より

□宍道氏の居城 金山要害山へ～ 通信制「フィールドワーク地域学習」～

フィールドワーク(野外調査)は、普段の机上での学びとは違い、汗を流して、直接現地に行き、見て、聴いて、触れて、尋ねて、嗅いで、味わって、感じて、考える学びです。学術的なフィールドワークは聞き取り調査やアンケート調査、史料・資料を採集することも含みます。

さて、6月17日(日)、通信制地歴・公民科の授業選択者のうち、希望者生徒11名と教員5名の参加により「フィールドワーク地域学習」が実施され、金山要害山に登りました(表紙の写真)。金山要害山は、約500年前、この地を治めていた戦国武将・宍道氏の居城でした。

金山要害山保存会の皆さんが整備した登山道をゆっくりと登り、要所では保存会の会長の伊原隆さんから中世山城の特徴を分かりやすく解説をしていただきました。中世の山城は近世の山城にあるような石垣はみられませんが、「枳形虎口」「大堀切」「土橋」など、随所に敵を迎え撃つための工夫がみられました。また城主が政務を司った「御居出成」、来客をもてなす施設があった「来待成」など、平坦地である「成」(曲輪)がいくつもみられました。山頂に到着すると、宍道湖と島根半島を望む素晴らしい景色を眺めることができました。

山から下り、金山公民館で保存会事務局長の錦織榮蔵さんから「金山要害山と宍道氏」をテーマに講義があり、中世山城の最終形態と呼ばれる金山要害山の特徴、宍道氏と尼子氏・大内氏・毛利氏との関わり、そしてこれからの保存会の活動について説明していただきました。

保存会として、500年前の姿をそのまま残すこの城跡を、子どもたちが自慢できる地域の宝にしたいとの思いを持って活動している、と話されました。とは言え、樹木や竹林の伐採、手すりや階段の設置、落石防止のネットを張るなどの整備は大変な作業です。その全てを地元の方々だけで行っているのは驚きでした。また、戦国武将のイラストが描かれた数々の案内板も地元の子どもの作品とのことでした。講義の後、かき氷と綿菓子を頂戴しながら保存会の方々との交流の時間もまた楽しい時間でした。

参加したすべての生徒がとても良い表情で学びを終えていました。もちろん「かき氷や綿菓子がおいしかった。嬉しかった。」ということもあるでしょう。その成果は参加者の感想等から次のようなことが言えると思います。第一に実際に現地に行き中世山城の特徴や宍道氏の足跡を深く理解できたこと、第二に地域の歴史遺産を自分たちの手で復元し遺していこうとする具体的な活動に接することができたこと、第三に自分たちの町と人を大切にしようとする思いや願いに直接触れられたこと、だと思っています。

帰りのこと。私と大内先生、生徒さん1名の3人はバスには乗らず、保存会の方のお勧めでJR木次線南宍道駅から宍道駅まで一駅間だけの列車の旅を楽しみました。

企画をしていただいた地歴・公民科の先生方、快く私たちを受け入れていただいた金山要害山保存会のみなさんに改めて感謝申し上げます。

11月には、宍道町内の歴史遺産や観光資源を巡る、フィールドワーク第2弾が計画されています。どうかお楽しみに。私もまた参加する予定です。

編 | 集 | 後 | 記

ロシアW杯、深夜にかかわらず日本チームの活躍に国中が興奮しました(米子北高出身の昌子選手の足がもう一歩早くボールに届けば…残念)。ウィンブルドンテニス、見事故障からの復活を見せた錦織圭選手【開星中出身】。プロ野球オールスター戦、阪神:糸原健斗選手【大東中・開星高出身】が活躍を認められ、監督推薦で初出場(小さいがプレーが輝いている)。小島也弥選手【宍道中出身】、侍女子:マドンナジャパンに選出される(やったね!子どものころからの夢が叶った)。身近な(?)人たちが雲の上で躍動しています。でも彼らは決して才能だけで現在があるのではない。

私の専門教科は保健体育・高校野球です。今年は全国選手権大会100回を迎えます。何と私は自分の現役時代を含めると40回も関わっていました。今大会もネット裏でボヤキ解説をしながら楽しむ予定です。否、しっかり声援するつもりです。

なぜ高校野球なのか、何が魅力なのか?そこには全力投球・全力疾走で野球に(野球を通して)挑む多くの球児がいるからです。彼らは皆全てに才能があるわけではなく、甲子園に行けるわけではないのですが…。そうです、大事なものは挑む意欲・意志であり、そのプロセスです。私は、多くの人はその姿に共感するからです。

宍道高校のみんな、挑む何かを見つけ、失敗しても自分を試してほしい。